

授業コード：xx241061

授業科目名：臨床心理学（理学・作業）

履修者数：104名

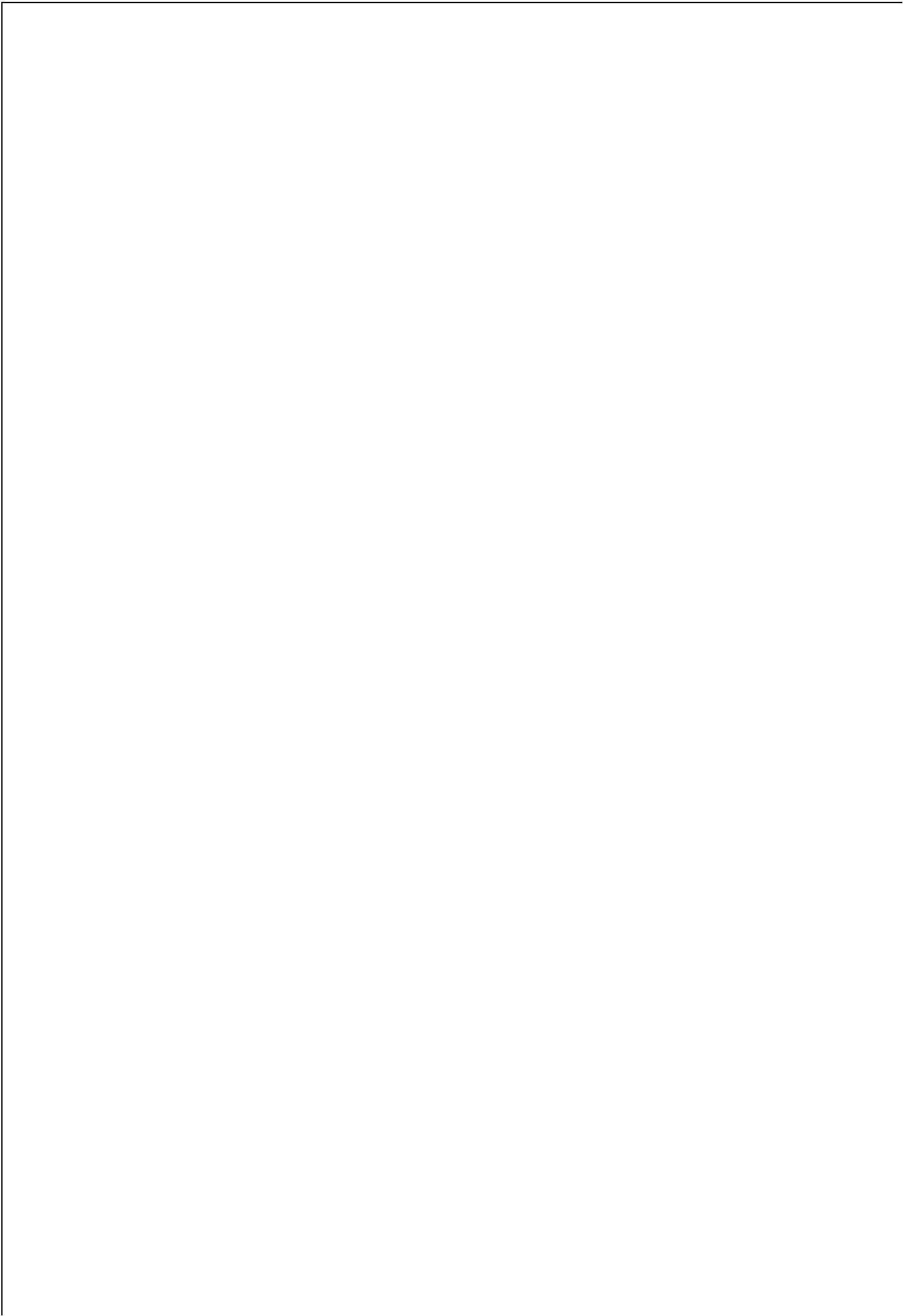
担当教員名：北川 公路

回答者数：86名

学部：	医療福祉	86	現代社会	0	経営法／総合政策	0	工／科学技術	0	
	無回答	18							
学科専攻：	理学療法	70	作業療法	16	言語聴覚	0	視覚機能	0	
	看護	0	保健福祉	0	現代社会	0	経営法／総合政策	0	
	知能情報	0	建築環境	0	臨床工学	0	無回答	18	
学年：	1年	0	2年	84	3年	2	4年	0	
								無回答	18

設問文	⑤	④	③	②	①	科目平均	大学平均	
設問文 ⑤そうである ④まあそうである ③どちらともいえない ②あまりそうとはいえない ①そうとはいえない	5	4	3	2	1			
A：授業への取り組みについて								
問1. 授業の欠席回数は何回でしたか ⑤0回 ④1～2回 ③3～4回 ②5～6回 ①7回以上	45	32	9	0	0	4.42	4.41	
問2. 授業の他に学習活動（予習・復習・課題・レポートなど）をしましたか	33	24	20	4	5	3.88	4.25	
問3. 授業を受講する前にシラバスを確認しましたか	39	28	12	3	4	4.10	4.29	
問4. 授業内容でわからないことを先生に質問しましたか	21	10	22	8	25	2.93	3.79	
B：授業内容・方法・成果について								
問5. 授業方法について、使われた方法すべてにマークしてください（複数選択可）								
	対面	86	遠隔(meet)	2	遠隔(音声ファイル)	1	遠隔(動画ファイル)	7
	遠隔(チャット)	0	遠隔(課題)	2	遠隔(テスト)	0	無回答	0
問6. 授業は系統的に整理、準備されていますか	57	22	5	1	1	4.55	4.57	
問7. 授業内容は理解しやすかったですか	47	26	11	1	1	4.36	4.37	
問8. 授業内容は質問しやすい環境でしたか	25	17	12	13	19	3.19	4.13	
問9. 授業のスピードおよび学習量は適切だったでしょうか	53	22	9	1	1	4.45	4.41	
問10. シラバスまたは授業初めに掲示された到達目標は達成されましたか	47	26	12	1	0	4.38	4.40	
問11. 授業内容は興味深く、知的好奇心を触発されましたか	43	32	8	1	2	4.31	4.39	
C：授業の全般的印象								
問12. 教員の熱意を感じましたか	51	27	6	1	1	4.47	4.54	
問13. この授業で専門的な知識や技術、または豊かな教養が身につきましたか	45	31	8	1	1	4.37	4.47	
問14. 総合的に判断すると満足できる授業でしたか	48	31	4	1	2	4.42	4.48	

学生へのメッセージ



授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。

とくに自由記載欄への記載をいただきありがとうございました。

設問項目への回答より自由記載欄の内容の方が次年度の授業へ反映させることができるため、大変ありがたく思います。

2024年度は、症例をもとにした講義を展開しました。そのため、症例をもとに説明をしていくという方法をとりましたので昨年度までのような

教科書をメインにした講義展開にはしませんでした。

自由記載欄のコメントに対して以下に回答します。学生さんのコメント抜粋しながらコメントをいれました。

【教員に対するコメント】

「熱意を感じる」や「教員を変えるべきである」などコメントがありました。

(教員より)

「熱意を感じる」というコメントがありました。質問項目のなかで熱意を感じるという評価は、高くありません。

また、例年、熱意を感じるという評価を得たことは少ないと思います。

基本的に淡々と講義を進めていくため熱意があるという評価を受けにくい話し方をしていると思います。

「教員を変えるべきである」というコメントは重く受け止めておきます。

【心理学に関するコメント】

「授業前には知らなかった心理を知ることができたのでよかった」「一年生に引き続き、心理学の授業は興味深かったです。ありがとうございました。」

「心理学って面白いなあと思いました」などコメントがありました。

(教員より)

心理学に興味をもっただけは科目担当としてうれしく思います。

みなさんの場合は、仕事にどのように活かすかということがとても大切になります。まずは、授業の内容や事項をしっかりとおさえた上で、患者さんのために使える知識・技術にあげてもらいたいと思います。

【授業の進め方に関するコメント】

「動画があり分かりやすかった」「動画を交えた授業だったので楽しく学べた」「授業は聞いていて分かりやすかった」「臨床場面を想定した心理療法であったり、患者さんの例を出したりと、実際の臨床場面を想定することができ、臨床実習にも役立てることが出来ると感じた」

「実際の体験がプリントに載っていて分かりやすかった」「図を用いたり、具体例をあげてくださっていたので理解することができた」

「説明がわかりずらかった」「教科書を買った意味がない」

(教員より)

「わかりやすかった」「わかりずらく」の両方のコメントがありました。「わかりずらく」というコメントはひとつだけですが、実際には一定数の学生が「わかりずらい」という評価をしている学生がいるものと推察しています。

「わかりずらい」と評価する学生がいなくなるような講義へと変えていく必要があると考えています。

「わかりずらい(コメントしていない学生さんも含む)と感じた学生さんへ

まずは、コメントのした、コメントしていない学生に関係なく「わかりずらかった」と感じた学生さんは、そのわからなかった部分をそのままにしておかないでください。講義が終わってすぐ、あるいは、あらためて研究室にきてわからないところを質問しにきてください。

わからないところをそのままにしないでください。

「教科書を買った意味がない(コメントはしていないが同じように感じた学生さんも含む)」と感じた学生さんへ

次年度の臨床心理学の最初の講義のガイダンスのなかで「教科書の使い方」について説明することにします。また、今年度の後期担当科目でも教科書の使い方について説明することにします。コメントを早速いかしていきたいと思います。

シラバスは科目を担当する教員と学生間の約束になります。シラバスを確認してもらえるとわかりますが、予習には、授業計画に基づき「教科書を通読する」よう記載してあります。履修者が教科書を通読していることを前提にして講義を進めています。また、復習には、「教科書とノートを用いて振り返る」と記載してあります。

講義のはじめ、あるいは講義中に教科書何ページの何行目、というような直接的な使い方をしていませんが、基本的には教科書を分かりやすく具体的にするために症例などを用いて講義を行っています。直接的に使っていないために教科書を買って意味がないと感じたのかもしれませんが、

教科書を基本として講義を組み立てています。また、シラバスの記載の通り学生自身が教科書を用いることを求めています。

【レポートを課す時期に関するコメント】

「授業の進捗状況を踏まえてテスト前にレポート課題が出ることは理解できますが、もう少し早い時間にして欲しい」

これは、ご指摘の通りです。

コロナ禍前は、心理アセスメントの講義が行ったあとに、心理検査を実施して3週間後をレポート締め切りにしていました。定期試験より、

だいぶ前に行っていました。

コロナ禍になってから、講義を進めることを再優先事項としています。講義が進み、何があっても大丈夫という時期での心理検査の実施を行っています。そろそろ以前のような形式に戻しても良いのかなど思っているところです。次年度以降から、コロナ禍前の進み方に戻していこうと考えています。

【配布資料に関するコメント】

「テスト範囲をまとめたプリントなどが配布されてとてもよかった」「資料は要点がとてもまとまっていてわかりやすかった」

「自宅でも学習できるように、授業動画やスライドのファイルをclassroom上で閲覧できるようになっていて、テスト勉強の時にとても役立つ」

「症例を取り上げ物語のようなスライドが多いのでテスト勉強をどのように行えば良いかが分かりづらい」「授業プリントをホチキス止めにしてまとめる、

第何回目、日にち、などを書いていただけるとどの回の資料が分かりやすくなると思います」

講義動画、配布資料をクラスルーム上にアップしておくことは、本学がクラスルームを用いる以上、継続していきます。

配布資料に関する事項は、紆余曲折があつていまに至っています。2006年度より本講義を担当しています。たとえば、ホチキス止め

にすると「自分は穴をあけてリングファイルに保管する為、ホチキスでとめないでください」といわれたことがあります。また、日付、講義回数も同じで

「記載がないほうがよい」というコメントがあります。他にはA4版1枚のスライド数の要望、縦書きか横書きかの要望、ページ番号の振り方などいろいろありました。

個々の要望にあわせて講義資料を作成することは不可能だなと感じています。さまざまな要望がありましたが、最大公約数の判断のもと作成していることをご理解ください。

この資料の作成に関することもガイダンスであらかじめ説明しておこうと思いました。

臨床心理学の症例を扱うと物語のようになってしまいます。叙述的になってしまうところがあり、昨年度まではこのような症例をあげての講義は

していませんでした。臨床心理学では「文脈」という言葉を使って症例を表現するような場合もあります。資料が長くなるだろうな、長くなってわかりに

くなくなるかも、という認識はありながら使ったのが今年度でした。症例のなかの文章をそぎ落とすと文意がかわってしまうこともあるため、長々と使わせてもらいました。

【定期試験やその勉強に関するコメント】

「テストの難易度も勉強して取れる範囲を越している」「授業では症例を取り上げ物語のようなスライドが多いのでテスト勉強をどのように

行えば良いかが分かりづらいと思いました」「テスト勉強がどのようにすれば良いか難しいです」

(教員からのコメント)

確かに難しかったのだと思います。とくに空所補充の問題が難しさを感じさせたものと思います。選択問題と記述式問題の出題は、例年通りになります。

症例などがあり、心理療法がわかりやすかったというコメントがあつたものの試験勉強をすとなると症例をどのように扱えばよいのかが難しかったの

かなと思いました。次年度は、理解するために用いていることや勉強するには邪魔になるかもしれないことの話をしたほうが良いようですね。

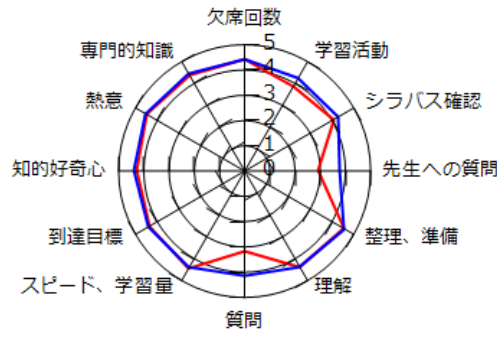
次年度にいかしていきたいと思います。

以上になります。

白中記述欄へのコメントは、こちらがレビューされています。

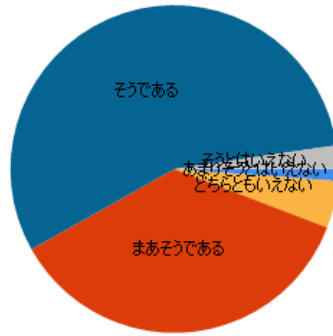
科目評価欄へのコメントありがとうございました。
講義運営の参考にさせていただきます。
みなさまにおかれましては、これからも頑張ってください。

レーダーチャート



凡例
■ 科目平均
■ 全体平均

総合評価



■ あまりそうとはいえない
■ どちらともいえない
■ まあそうである
■ そうである
■ そうとはいえない